



TITLE:

<日誌・業績>高等教育研究開発推進センター 日誌・組織・教員業績
(2017年4月1日-2018年3月31日)

AUTHOR(S):

CITATION:

<日誌・業績>高等教育研究開発推進センター 日誌・組織・教員業績
(2017年4月1日-2018年3月31日). 京都大学高等教育研究 2018, 24: 95-126

ISSUE DATE:

2018-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/241254>

RIGHT:

高等教育研究開発推進センター日誌

(2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日)

年 月 日	記 事
2017. 4. 2	教授 松下 佳代 Hamilton Crown Plaza にて Breaking New Ground Summit に参加のためアメリカへ海外出張 (4.6 帰国)
4. 6	文学研究科プレ FD プロジェクト事前研修会
4.12	高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 29 年度第 1 回)
4.19	高等教育研究開発推進センター・リトリート 場所：京都大学吉田泉殿
4.27	研究会 場所：京都大学吉田南 1 号館 206 号室 演者：David Careless, Ph.D. (University of Hong Kong) 「大学での優れた授業法を提案する」 “Developing teaching excellence in Japanese universities”
4.25	関西地区 FD 連絡協議会第 14 回幹事会
5.10	高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 29 年度第 2 回)
5.16	高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 29 年度第 1 回)
5.17	教授 飯吉 透 The University of Hong Kong にて Asian e-Table 2017 に登壇・講演のため香港へ海外出張 (5.20 帰国)
5.17	教授 溝上 慎一 Van Swinderen Huys にて The International Society for Research on Identity 24th Annual Conference に参加及び情報収集のためオランダへ海外出張 (5.23 帰国)
5.20	関西地区 FD 連絡協議会 第 10 回総会 場所：大阪大学豊中キャンパス理学研究科 南部陽一郎ホール プログラム： 総会 全体進行：大山 牧子 (大阪大学) 開会挨拶：星野 聡孝 (大阪府立大学) 議事 議長：佐藤 宏介 (大阪大学) 進行：増澤 利光 (大阪大学) ① 平成 28 年度活動報告について ② 平成 28 年度決算について ③ 平成 29 年度活動方針について

- ④ 平成 29 年度予算について
- ⑤ 次期幹事校の選出について
- ⑥ その他

講演

「大学教育のイノベーション—ミネルバ大学の挑戦—」

講師：山本 秀樹（ミネルバ大学日本事務所代表）

ワークショップ

「自大学でイノベーションをどう起こすか」

ファシリテーター：佐藤 浩章（大阪大学全学教育推進機構）

閉会挨拶：佐藤 宏介（大阪大学）

FD 活動報告（ポスター発表）及び情報交換会（於：交流サロン）

- ① 京都橘大学「京都橘大学における教育開発支援過程—現場に即したミドルレベル教育開発支援の在り方—」
- ② 関西学院大学「言語教育における教育補助者の業務の特徴と効果的な活用に向けた提言」
- ③ 関西大学「関西大学における全学的ルーブリック普及への取組実践」
- ④ 関西大学「関西大学における全学的ライティング支援～ライティングラボの取り組みと支援体制の再構築～」
- ⑤ 京都外国語大学「外国語自律学習支援室 NINJA におけるアドバイジングの取組」
- ⑥ 大阪府立大学「大阪府立大学における内部質保障システム」
- ⑦ 大阪府立大学「大阪府立大学における e-ポートフォリオの取り組み」
- ⑧ 京都大学「京都大学における ICT 活用教育のためのポータルサイト CONNECT の構築」
- ⑨ 京都大学「京都大学における部局支援・協働型 FD—教育学部における高大接続の取組を事例として—」
- ⑩ 長浜バイオ大学「長浜バイオ大学 学習支援と FD の関わり」
- ⑪ 大阪大学「大阪大学における大学院生のための教育トレーニングプログラム」
- ⑫ 大阪大学「阪大×サンフランシスコ双方向型遠隔授業の取組み」
- ⑬ 大阪大学「大阪大学の新しい新任教員研修プログラム」
- ⑭ 大阪大学「大阪大学 MOOC プロジェクトによるグローバル edX 制作配信の取り組み」

5.30 国際シンポジウム・第 92 回公開研究会

「大学教育の創造的破壊と未来—世界最先端の次世代教育が仕掛けるエリート教育を探る—」

（“Creative Destruction and the Future of Higher Education”）

主催：高等教育研究開発推進センター

後援：日本 e ラーニングコンソシアム

場所：芝蘭会館稲盛ホール

プログラム：

開会挨拶

飯吉 透（京都大学教育担当理事補・高等教育研究開発推進センター長・教授）

活動報告「京都大学の取り組み」

酒井 博之（高等教育研究開発推進センター准教授）

田口 真奈（高等教育研究開発推進センター准教授）

特別講演「ミネルバ大学と高等教育の未来」

- 山本 秀樹 (ミネルバ大学日本事務所代表)
 基調講演 “How to Update Existing Higher Education?”
 Ben Nelson (Founder, Chairman, and CEO, Minerva Schools at KGI)
 対談 “Open Educational Innovation: Creative Destruction or Destructive Creation?”
 Ben Nelson × 飯吉 透
 パネルディスカッション
 モデレーター：飯吉 透
 指定討論者：君和田卓之 (三井物産サービス事業部ヒューマンキャピタル事業室長)
 松下 佳代 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)
 ディスカッション：Ben Nelson, Kenn Ross (Managing Director, Asia, Minerva Schools at KGI)、
 君和田卓之、松下 佳代
6. 2 高等教育研究開発推進センター協議員会 (平成 29 年度第 1 回)
6. 6 高等教育研究開発推進センター教育コンテンツ活用推進委員会 (平成 29 年度第 1 回)
- 6.14 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 29 年度第 3 回)
- 6.23 平成 29 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 継続
 「能力形成を促すパフォーマンス評価の開発と拡張」
 研究代表者：松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授
 研究分担者：小野 和宏 新潟大学医歯学系教授
 平山 朋子 藍野大学医療保健学部准教授
 斎藤 有吾 高等教育研究開発推進センター特定助教
- 平成 29 年度科学研究費助成事業・若手研究 (B) 新規
 「プログラミング演習の学習科学的分析と初学者向け学習教材の開発」
 研究代表者：岡本 雅子 高等教育研究開発推進センター特定助教
- 6.24 平成 29 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (C) 継続
 「人文系科目におけるアクティブラーニング推進のための大学初任教員支援に関する研究」
 研究代表者：田口 真奈 高等教育研究開発推進センター准教授
- 平成 29 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 継続
 「学習成果に結実するアクティブラーニング型授業のプロセスと構造の実証的検討と理論化」
 研究代表者：溝上 慎一 高等教育研究開発推進センター教授
 研究分担者：森 朋子 関西大学教育推進部教授
 三保 紀裕 京都学園大学経済経営学部准教授
 本田 周二 大妻女子大学人間関係学部講師
 山田 邦雅 北海道大学高等教育推進機構准教授
 長澤 多代 三重大学地域人材教育開発機構准教授
 山田 嘉徳 大阪産業大学全学教育機構講師
 紺田 広明 関西大学教育推進部研究員
- 6.28 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 29 年度第 2 回)
7. 5 高等教育研究開発推進センター協議員会 (平成 29 年度第 2 回)

- 7.12 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 29 年度第 4 回)
- 7.14 香港理工大学の MOOC・オンライン教育の取組に関するセミナー
場所：京都大学吉田南 1 号館 201 号室
講師：Prof. Eric Tsui (香港理工大学)
- 7.19 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 29 年度第 3 回)
8. 9 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 29 年度第 5 回)
- 8.18 大学生研究フォーラム 2017
「10 年目を迎えた大学生研究フォーラム」
主催：京都大学高等教育研究開発推進センター・東京大学大学総合教育研究センター・公益財団法人電通育英会
場所：京都大学百周年時計台記念館
プログラム：
趣旨説明
ファシリテーター：村上 正行 (京都外国語大学・教授)
講演「10 年間の大学生研究フォーラムを振り返って」
溝上 慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター・教授)
趣旨説明 (午後に向けての楽しみ方)
ファシリテーター：村上 正行 (京都外国語大学・教授)
昼食交流会
主催者挨拶
分科会
【1】「企業との連携」
ファシリテーター：山辺恵理子 (都留文科大学・講師)
登壇者：松高 政 (京都産業大学・准教授)
岩佐 峰之 (京都市立西京高校・主幹教諭)
【2】「学びとキャリアの連携」
ファシリテーター：山田 剛史 (京都大学・准教授)
登壇者：石山 恒貴 (法政大学大学院・教授)
今村 久美 (認定 NPO 法人カタリバ・代表理事)
【3】「地域との連携」
ファシリテーター：田口 真奈 (京都大学・准教授)
登壇者：片峰 茂 (長崎大学・学長)
中村 怜詞 (鳥根県立隠岐島前高校・教諭)
パネルディスカッション
司会：溝上 慎一 (京都大学・教授)
パネラー：中原 淳 (東京大学・准教授)
松下 佳代 (京都大学・教授)
児美川孝一郎 (法政大学・教授)
閉会
- 8.19 ICT を活用した高大接続ワークショップ
—京大の教育コンテンツを授業で使ってみよう—

主催：京都大学高等教育研究開発推進センター、高槻中学校・高等学校

協賛：大阪府サイエンススクールネットワーク

プログラム：

司会進行：松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

前田 秀樹（高槻中学校・高等学校教頭）

オープニング

挨拶：岩井 一（高槻中学校・高等学校校長）

講演「ICT で切りひらく高大接続の新しいかたち」

飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター長・教育担当理事補）

紹介「京都大学の教育コンテンツ」

田口 真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

高槻からの提案

・OCW 活用アイデア（化学：田中 敏博教諭、生物：奥野 直人教諭）

ワークショップ

・ワークショップの進め方

・グループワーク

・プレゼン

クロージング

8.22 大学院生のための教育実践講座 2017—大学でどう教えるか—

FD 研究検討委員会主催

高等教育研究開発推進センター共催

場所：京都大学百周年時計台記念館 2 階

【Basic】プログラム：

開会式

挨拶

北野 正雄（京都大学理事・副学長）

趣旨とプログラム説明

斎藤 有吾（高等教育研究開発推進センター特定助教）

ミニ講義 1 「大学を取り巻く状況と多様な授業実践」

松下 佳代（高等教育研究開発推進センター教授）

グループ討論 1 4 人一組によるグループワーク 1

ランチと自由討論 グループをシャッフルして自由討論

コミュニケーションデザイン 「演劇でコミュニケーションデザイン」

蓮行（劇団衛星）

ミニ講義 2 「後輩たちに伝えたい大学教員になる前の準備あれこれ」

田中 一孝（桜美林大学講師）

グループ討論 2 4 人一組によるグループワーク 2

グループ討論整理

全体討論

ラップアップ

閉会式

挨拶・修了証授与

飯吉 透（FD 研究検討委員会委員長／高等教育研究開発推進センター長・教授）

情報交換会

- 8.24～25 MOST フェロー合宿 2017
(第6期 MOST フェローシッププログラム第2回ミーティング)
場所：北九州市立大学北方キャンパス新図書館
9. 6 2017 年度京都大学新任教員教育セミナー
FD 研究検討委員会・高等教育研究開発推進センター共同主催
場所：京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホール・国際交流ホール
開会式
司会・趣旨説明 高等教育研究開発推進センター准教授 山田 剛史
セッション1
オープニングレクチャー：「現在の大学教育の動向と京都大学の教育改革」
理事・副学長（教育・情報・評価担当） 北野 正雄
セッション2
ミニ講義：「埋め込み型研究公正教育のすすめ」
文学研究科准教授 伊勢田 哲治
セッション3：本学教員による授業実践紹介
私の授業 薬学研究科教授 金子 周司
セッション4：京大の教育・学習支援
高等教育研究開発推進センター准教授 山田 剛史／田口 真奈
セッション5：グループ別セッション（参加型セッション）
【講】…担当講師、【77】…ファシリテーター
テーマ1「『英語による授業』を担当することになったら」
【講】情報環境機構長／国際高等教育院教授 喜多 一
【77】高等教育研究開発推進センター研究員 Nikan Sadehvandi／河野 亘
テーマ2「科学を『伝える』授業から、科学が『伝わる』授業へと転換するには」
【講】滋賀大学教育学部准教授（元京都大学 iCeMS 特任准教授） 加納 圭
【77】高等教育研究開発推進センター特定助教 岡本 雅子
テーマ3「困難を抱えた学生に向き合うには」
【講】学生総合支援センターカウンセリングルーム准教授 中川 純子
【77】高等教育研究開発推進センター特定助教 斎藤 有吾
テーマ4「講義科目でおこなうアクティブラーニング型授業」
【講】高等教育研究開発推進センター教授 溝上 慎一
【77】高等教育研究開発推進センター研究員 河合 直樹
テーマ5「ICT を使って、普段の授業をもっと楽しく、ちょっと楽に」
【講】高等教育研究開発推進センター准教授 田口 真奈／酒井 博之
【77】高等教育研究開発推進センター特定研究員 安宅 純子
セッション6
インテグレーションセッション
閉会式
閉会挨拶：FD 研究検討委員会委員長／高等教育研究開発推進センター長 飯吉 透
9. 8 全学教育シンポジウム
「社会とつながる京都大学の教育」
主催：FD 研究検討委員会

場所：船井哲良記念講堂

プログラム：

司会進行：山田 剛史（高等教育研究開発推進センター准教授）

開会挨拶・基調講演1：「京都大学が直面する課題と教育改革の方向性」

北野 正雄 理事（教育・情報・評価担当）・副学長

テーマ1：パネルディスカッション

「京都大学の教育の今とこれから：人文・社会科学系からの提言」

モデレーター：飯吉 透 理事補（教育担当）・高等教育研究開発推進センター長

パネリスト：北野 正雄 理事（教育・情報・評価担当）・副学長

川添 信介 理事（学生・図書館担当）・副学長

平田 昌司 文学研究科長

高見 茂 前教育学研究科長

潮見 佳男 前法学研究科長

文 世一 経済学研究科長

杉山 雅人 人間・環境学研究科長

基調講演2：「社会の中で京都大学の存在感を高めるために」

山極 壽一 総長

テーマ2「社会とつながる京都大学の教育：高大連携・地域連携」

テーマの説明：松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授

報告・質疑応答

高大連携（ELCAS）：村上 章 副ユニット長・農学研究科副研究科長

高大連携（京大オープン教材）：田口 真奈 高等教育研究開発推進センター准教授

地域連携（教育問題解決の支援）：桑原 知子 理事補（広報担当）・教育実践コラボレーションセンター長・教育学研究科教授

地域連携（サービス・ラーニング）：佐山 敬洋 防災研究所准教授

テーマ3：パネルディスカッション

「京都大学の教育の強みをどう見極め、育み、社会に発信していくか」

モデレーター：飯吉 透 理事補（教育担当）・高等教育研究開発推進センター長

パネリスト：山極 壽一 総長

北野 正雄 理事（教育・情報・評価担当）・副学長

川添 信介 理事（学生・図書館担当）・副学長

木南 敦 理事補（教育担当）・法学研究科教授

東島 清 監事

閉会挨拶

情報交換会

9.14～15

平成29年度全国大学教育研究センター等協議会参加（徳島大学にて）

参加者：山田 剛史（高等教育研究開発推進センター准教授）

9.19

高等教育研究開発推進センター運営会議（平成29年度第6回）

高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成29年度第4回）

9.20

教授 飯吉 透 SoTL-Asia Conferenceに参加のためシンガポールへ海外出張（9.23 帰国）

10.18

高等教育研究開発推進センター運営会議（平成29年度第7回）

10.11～13	Open Education Conference 2017 参加 参加者：飯吉 透（高等教育研究開発推進センター教授）
10.20	教授 溝上 慎一 Dr. Jutta Kunig と研究課題に係る情報交換のためオランダへ、研究課題に係る大学、高校の授業視察、教員インタビュー等のためフィンランドへ海外出張（10.27 帰国）
10.30	教授 松下 佳代 MOELC Bishan Campus にてワークショップ講演及び学習評価に関する情報収集のためシンガポールへ海外出張（11.2 帰国）
10.31～11. 3	EDUCAUSE Annual Conference 2017 参加（ペンシルベニアコンベンションセンターにて） 参加者：森村 吉貴（高等教育研究開発推進センター特定准教授）
11. 2	教授 飯吉 透 2017 Transforming STEM Higher Education: Discovery, Innovation, and the Value of Evidence に参加、情報収集のためアメリカへ海外出張（11.5 帰国）
11. 8	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 29 年度第 8 回）
11.16	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 29 年度第 5 回）
11.20	高等教育研究開発推進センター教育コンテンツ活用推進委員会（平成 29 年度第 2 回）
11.22	教授 飯吉 透 the Dean's Conference on Quality Standards に参加、情報収集のためタイへ海外出張（11.25 帰国）
11.30	高等教育研究開発推進センター協議員会（平成 29 年度第 3 回）
12. 5	2017 edX Global Forum 参加（ウィスラー・カナダにて） 参加者：飯吉 透（高等教育研究開発推進センター教授） 酒井 博之（高等教育研究開発推進センター准教授）
12.13	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 29 年度第 9 回）
12.20	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 29 年度第 6 回）
2018. 1.17	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 29 年度第 10 回） 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 29 年度第 7 回）
2. 2	高等教育研究開発推進センター協議員会（平成 29 年度第 4 回）
2. 6	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 29 年度第 11 回）
2.22	文学研究科プレ FD プロジェクト 2017 年度事後研修会
3. 2	国際シンポジウム・第 93 回公開研究会 「ブレンディッドな次世代高等教育を展望する—アジアのトップ大学の ICT 活用教育最前線—」 主催：京都大学高等教育研究開発推進センター 共催：京都大学情報環境機構

	<p>場所：芝蘭会館稲盛ホール</p> <p>プログラム：</p> <p>司会進行：斎藤 有吾（京都大学高等教育研究開発推進センター特定助教）</p> <p>開会挨拶</p> <p>喜多 一（京都大学情報環境機構長・国際高等教育院教授）</p> <p>講演</p> <p>「京都大学における MOOC・SPOC の現状と展望」</p> <p>酒井 博之（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）</p> <p>「京都大学における ICT 活用教育促進の取り組み：教育実践の見える化と共有を通じて」</p> <p>田口 真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）</p> <p>特別講演「ICTによって強化された 2025 年の高等教育を展望する」</p> <p>飯吉 透（京都大学教育担当理事補・高等教育研究開発推進センター長・教授）</p> <p>特別講演（ビデオ出演）</p> <p>「MOOC とブレンディッド・ティーチングの促進：大学と教員としての経験から」</p> <p>Prof. Xiaoming Li (Head of MOOC initiatives, Peking University, Director, Institute of Network Computing and Information Systems)</p> <p>基調講演「ソウル大学におけるブレンディッド・ラーニング」</p> <p>Prof. Cheolil Lim (Professor, Department of Education, Seoul National University, President, Korean Society for Educational Technology)</p> <p>基調講演「MOOCs を越えて：挑戦と好機」</p> <p>Prof. Ting Chuen Pong (Senior Advisor to the EVPP (Teaching Innovation & E-learning), Director, Center for Engineering Education, Hong Kong University of Science and Technology)</p> <p>パネルディスカッション</p> <p>モデレーター：松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）</p> <p>指定討論者：喜多 一</p> <p>パネリスト：Xiaoming Li, Cheolil Lim, Ting Chuen Pong, 飯吉 透</p>
3. 8	高等教育研究開発推進センター教育コンテンツ活用推進委員会（平成 29 年度第 3 回）
3.13	<p>高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 29 年度第 12 回）</p> <p>高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 29 年度第 8 回）</p>
3.20～21	<p>第 24 回大学教育研究フォーラム</p> <p>協賛：学校法人河合塾教育イノベーション本部、関西地区 FD 連絡協議会</p> <p>場所：京都大学吉田南総合館、百周年時計台記念館</p> <p>プログラム：</p> <p>■ MOST フェロー発表会</p> <p>■ シンポジウム</p> <p>開会の挨拶：北野 正雄（京都大学教育・情報・評価担当理事）</p> <p>趣旨説明：松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）</p> <p>シンポジウム「人工知能に代替されない能力とその教育を考える」</p> <p>松原 仁（公立はこだて未来大学教授）</p> <p>河野 哲也（立教大学文学部教授）</p> <p>指定討論 北野 正雄（京都大学理事・副学長）</p> <p>■ 特別講演</p>

	<p>竹内 洋 (関西大学東京センター長・京都大学名誉教授・関西大学名誉教授)</p> <p>■学術セミナー</p> <p>緒方 広明 (京都大学学術情報メディアセンター教授)</p> <p>杉原 保史 (京都大学学生総合支援センター長)</p> <p>■個人研究口頭発表 27 部会 106 件</p> <p>■個人研究ポスター発表 80 件</p> <p>■参加者企画セッション 14 件</p>
3.20	第 6 期 MOST フェローシッププログラム修了式
3.21	第 7 期 MOST フェローシッププログラム第 1 回ミーティング
3.28	<p>国際シンポジウム</p> <p>「学習成果の評価と学習改善—科目レベルとプログラムレベルの評価をつなぐ—」</p> <p>場所：芝蘭会館別館研修室 1</p> <p>プログラム：</p> <p>開会挨拶・趣旨説明</p> <p>松下 佳代 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)</p> <p>基調報告</p> <p>「科目レベルとプログラムレベルの評価をつなぐために」</p> <p>松下 佳代 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)</p> <p>招待講演</p> <p>「アセスメントを通しての学習改善—JMU の経験から—」</p> <p>Keston Fulcher (Executive Director, CARS at James Madison University)</p> <p>日本での取組 1</p> <p>「プログラムレベルの学習成果評価—重要科目でのパフォーマンス評価にもとづいて—」</p> <p>小野 和宏 (新潟大学大学院医歯学総合研究科教授)</p> <p>日本での取組 2</p> <p>「真正のパフォーマンス評価による学習改善—OSCE-R を通して—」</p> <p>平山 朋子 (藍野大学人間健康学部理学療法学科准教授)</p> <p>日本での取組 3</p> <p>「学習成果の評価の枠組み—量的評価 vs. 質的评价、直接評価 vs. 間接評価の二項対立を超えて—」</p> <p>斎藤 有吾 (京都大学高等教育研究開発推進センター特定助教)</p> <p>コメントとディスカッション</p> <p>まとめ・閉会</p>

(寺井 佐加恵)

高等教育研究開発推進センター組織

(2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日)

高等教育研究開発推進センター協議員：

飯吉 透	センター長
松下 佳代	センター教授
溝上 慎一	センター教授
北野 正雄	教育担当理事
喜多 一	情報環境機構長
田口 紀子	大学院文学研究科教授
稲垣 恭子	大学院教育学研究科長
木南 敦	大学院法学研究科教授
島本 哲朗	大学院経済学研究科教授
平野 丈夫	大学院理学研究科教授
小西 靖彦	大学院医学研究科教授
竹本 佳司	大学院薬学研究科教授
大嶋 正裕	大学院工学研究科教授
土井 元章	大学院農学研究科教授
小山 静子	大学院人間・環境学研究科教授
磯 祐介	大学院情報学研究科教授
美濃 導彦	学術情報メディアセンター教授
吉崎 武尚	国際高等教育院教授

高等教育研究開発推進センター運営委員：

飯吉 透	センター長
松下 佳代	センター教授
溝上 慎一	センター教授
田口 真奈	センター准教授
酒井 博之	センター准教授
山田 剛史	センター准教授
土佐 尚子	センター教授（兼）
森村 吉貴	センター特定准教授
岡本 雅子	センター特定助教
藤岡 干也	センター特定助教
斎藤 有吾	センター特定助教
長谷 海平	センター特定助教

高等教育研究開発推進センター教育コンテンツ活用推進委員会：

飯吉 透	センター長
酒井 博之	センター准教授
田口 真奈	センター准教授
児玉 聡	文学研究科・文学部准教授

西岡加名恵	教育学研究科・教育学部教授
原田 大樹	法学研究科・法学部教授
坂出 健	経済学研究科・経済学部准教授
伊藤 哲史	理学研究科・理学部准教授
錦織 宏	医学研究科・医学部准教授
金子 周司	薬学研究科・薬学部教授
山本 量一	工学研究科・工学部教授
平井 伸博	農学研究科・農学部教授
西山 教行	人間・環境学研究科・総合人間学部教授
下田 宏	エネルギー科学研究科教授
東長 靖	アジア・アフリカ地域研究研究科教授
川嶋 宏彰	情報学研究科准教授
吉村 成弘	生命科学研究科准教授
河合江理子	総合生存学館（思修館）教授
西前 出	地球環境学堂・学舎准教授
山内 裕	経営管理研究部・経営管理教育部准教授
喜多 一	国際高等教育院教授
土佐 尚子	情報環境機構教授
梶田 将司	情報環境機構教授
飯山 将晃	学術情報メディアセンター准教授
外村孝一郎	企画・情報部 情報基盤課 教育用システム管理掛 掛長
呑海 和彦	教育推進・学生支援部 教務企画課 課長補佐

高等教育研究開発推進センター教員業績

(2017 年 4 月～2018 年 3 月)

※職名は 2017 年度

第一部門（高等教育教授システム研究開発部門）

飯吉 透（教授）

1. 研究業績

【報告書】

- ・飯吉透 2018.3 「はじめに」京都大学高等教育研究開発推進センター『CPEHE Annual Report 2017』, 1.
- ・岡本雅子・田口真奈・酒井博之・飯吉透 2018.3 「Ⅲ. ICT の教育的活用 4. MOST（オンライン FD 支援システム）」同上, 25.
- ・飯吉透 2018.3 「ごあいさつ」京都大学 FD 研究検討委員会『2017 京都大学の FD』, 1.

【著書など】

- ・飯吉透 2017.7 「ラーニングアナリティクス」人工知能学会（編）『人工知能大辞典』, 共立出版, 1171.

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・ILAS セミナー「Introduction to Educational Innovation—New Trends in Learning and Teaching」（前期）

③大学院教育

- ・「高等教育システム演習」（教育学研究科, 前期）
- ・「高等教育論開発論研究 A・B」（教育学研究科, 前・後期）
- ・「高等教育開発論基礎」（教育学研究科, 前期）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・理事補（教育担当）
- ・高等教育研究開発推進センター センター長
- ・FD 研究検討委員会 委員長
- ・教育コンテンツ活用推進委員会 委員長
- ・教育制度委員会 委員
- ・入学試験委員会 委員
- ・高大接続・入試センター運営委員
- ・国際戦略本部運営協議会 協議員
- ・国際教育委員会 委員
- ・国際教育委員会企画運営委員会 USRN 小委員会 委員
- ・全学海外拠点運営専門部会 部会員
- ・研究公正委員会 委員
- ・全学情報セキュリティ委員会 委員
- ・高大接続科学教育ユニット運営協議会 協議員

- ・ 吉田南総合図書館協議会 協議員
- ・ 情報環境機構 KUINS 利用負担金検討委員会 委員

【社会活動】

- ・ Asian Journal of the Scholarship of Teaching and Learning, Editorial Board Member
- ・ 私学高等教育研究所 客員研究員
- ・ 一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC） 理事
- ・ 関西地区 FD 連絡協議会 幹事校代表
- ・ 学校法人冬木学園 次世代研究開発プロジェクト外部評価委員
- ・ 立命館宇治高等学校スーパーグローバルハイスクール（SGH）運営指導委員会 委員
- ・ 京都大学サイエンスフェスティバル 2017 審査員

【講演・シンポジウムなど】

- ・ Nelson, Ben & 飯吉透 2017.5.30 “Open Educational Innovation: Creative Destruction or Destructive Creation?” 対談パネル，京都大学高等教育研究開発推進センター国際シンポジウム・第 92 回公開研究会「大学教育の創造的破壊と未来—世界最先端の次世代大学が仕掛けるエリート教育を探る—」，京都大学
- ・ 飯吉透 2017.6.1 「誰が為に MOOC は在る」New Education EXPO 東京，東京ファッションタウンビル
- ・ 飯吉透 2017.6.17 「誰が為に MOOC は在る」New Education EXPO 大阪，大阪マーチャングイズ・マート
- ・ 飯吉透 2017.6.22 「オンライン学習と高等教育の未来—世界・アジア・日本における展望—」日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC）総会招待講演，明治大学
- ・ 飯吉透 2017.7.29 「教育進化論：オープンエデュケーションの先にある教育の未来」ファーストスタープロジェクト設立記念総会招待講演，東京
- ・ 飯吉透 2017.8.18 「ICT で切り拓く高大接続の新たな可能性」ICT を活用した高大接続ワークショップ，高槻中学校・高等学校
- ・ 飯吉透 2017.9.21 “Scholarship of Teaching and Learning (SoTL) and Technology-enhanced Teaching and Learning (TeTL)”, SoTL-Asia Conference 2017, National University of Singapore, Singapore
- ・ 飯吉透 2017.10.18 「世界の大学教育改革の動向と日本の大学における課題と可能性」近畿地区会計事務研修講演，京都大学
- ・ 飯吉透 2017.10.21 「教育と職業の未来—21 世紀の『知の革命』が変える私たちの学びと仕事—」大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会講演，東京経済大学
- ・ 飯吉透 2017.11.24 “Promising Practices to Develop Subject-specific Benchmarks: Educational Studies”, UNESCO’s Asia-Pacific Expert Meeting: Implementing National Qualifications Frameworks (NQF) at Subject Level, Bangkok, Thailand
- ・ 飯吉透 2017.12.25 「グローバルな教育のオープン化が変える日本と世界の教育の未来」三国丘高校スーパーグローバルハイスクール特別講義，京都大学
- ・ 飯吉透 2018.1.5 “Promoting the Creation, Use and Re-Use of Online Educational Resources to Advance Teaching and Learning”, The Association of East Asian Research Universities (AEARU) Symposium on Teaching and Learning, Hong Kong University of Science and Technology, Hong Kong
- ・ 飯吉透 2018.1.25 「学びと仕事の新世界：学習テクノロジーの潮流と未来」日本 e ラーニングコンソーシアム New Year Meeting 2018 基調講演，東京
- ・ 飯吉透 2018.2.11 「宇宙人材育成と『未知との遭遇』」京都大学第 11 回宇宙ユニットシンポジウム，京都大学
- ・ 飯吉透 2018.2.28 「これからの教育・学校・社会はどう変わるか—人工知能やテクノロジーの進化がもたらす学びと仕事の新たな世界—」京都府専修学校各種学校協会代表者管理者研修会講演，京都私学会館
- ・ 飯吉透 2018.3.19 「教育の情報化と情報の教育の新たな潮流—MOOC，オンライン教育や学位・単位の認証を中心に—」高度情報教育基盤ユニットシンポジウム講演，京都大学

松下 佳代 (教授)

1. 研究業績

【著書】

(編著)

- ・ Matsushita, K. (Ed.) 2017.9 *Deep active learning: Toward greater depth in university education*. Singapore: Springer.

(分担執筆)

- ・ 松下佳代 2017.6 「家庭科のアクティブラーニングのかたち—深い学びの評価について—」日本家庭科教育学会中国地区会 (編)『アクティブラーニングを活かした家庭科の授業開発』教育図書, 5-7.
- ・ Matsushita, K. 2017.9 Introduction. In K. Matsushita (Ed.), *Deep active learning: Toward greater depth in university education* (pp. 1-12). Singapore: Springer.
- ・ Matsushita, K. 2017.9 An invitation to deep active learning. In K. Matsushita (Ed.), *Deep active learning: Toward greater depth in university education* (pp. 15-33). Singapore: Springer.
- ・ Taguchi, M., & Matsushita, K. 2017.9 Deep learning using concept maps: Experiment in an introductory philosophy course. In K. Matsushita (Ed.), *Deep active learning: Toward greater depth in university education* (pp. 137-157). Singapore: Springer.
- ・ Ono, K., & Matsushita, K. 2017.9 PBL tutorial linking classroom to practice: Focusing on assessment as learning, In K. Matsushita (Ed.), *Deep active learning: Toward greater depth in university education* (pp. 183-206). Singapore: Springer.
- ・ 松下佳代 2017.12 「学力と進学」子安増生・明和政子 (編著)『教職教養講座第9巻 発達と学習』協同出版, 217-236.
- ・ 松下佳代 2017.12 「学力の国際比較」子安増生・明和政子 (編著)『教職教養講座第9巻 発達と学習』協同出版, 237-254.

【論文】

- ・ 松下佳代 2017.4 「学力とは—教育学の観点から—」『日本労働研究雑誌』第681号, 55-57.
- ・ 松下佳代 2017.6 「科学教育におけるディープ・アクティブラーニング—概念変化の実践と研究に焦点をあてて—」『科学教育研究』第40巻第2号, 77-84.
- ・ 松下佳代 2017.7 「学習成果とその可視化」『高等教育研究のニューフロンティア (高等教育研究 第20集)』玉川大学出版部, 93-112.
- ・ 斎藤有吾・小野和宏・松下佳代 2017.11 「ルーブリックを活用した学生と教員の評価のズレに関する学生の振り返りの分析—PBLのパフォーマンス評価における学生の自己評価の変容に焦点を当てて—」『大学教育学会誌』第39巻第2号, 48-57.
- ・ 松下佳代 2017.12 「深い学びにおける知識とスキル—教科固有性と汎用性に焦点をあてて—」『教育目標・評価学会紀要』第27号, 1-10.

【その他の著作物】

(一般雑誌)

- ・ 松下佳代 2017.11 「『資質・能力』の総合的な育成をめざして『深い学び』に着目した教育改善を」河合塾『ガイドライン』, 28-34.
- ・ 松下佳代 2018.1 「インタビュー：建築の学びを深く、アクティブなものへ」『建築雑誌』第133集1706号, 12-13.
- ・ 松下佳代 2018.1 「インタビュー：ディープ・アクティブラーニング」という示唆『看護教育』第59巻第2号, 120-127.

(報告書)

- ・ 松下佳代 2017.9 「パフォーマンス評価による学習の質の評価」医学教育振興財団『J.M.E.F.』第35号, 2-59.
- ・ 松下佳代・斎藤有吾 2018.3 「全学教育シンポジウム」京都大学高等教育研究開発推進センター『CPEHE Annual Report 2017』, 3-4.
- ・ 松下佳代・斎藤有吾 2018.3 「大学院生のための教育実践講座」同上, 12.
- ・ 田口真奈・松下佳代 2018.3 「宇宙総合学研究ユニットとの連携」同上, 14.
- ・ 松下佳代・山田剛史 2018.3 「医学教育・国際化推進センターとの連携」同上, 15.
- ・ 松下佳代 2018.3 「国際シンポジウム『大学教育の創造的破壊と未来—世界最先端の次世代大学が仕掛けるエリート教育を探る—』」同上, 33-34.

- ・松下佳代 2017.12 「学習のための評価—学習成果の評価と活用」神奈川大学FD・学生支援推進委員会『FD ニュースレター』No. 12, 2-3.
- ・松下佳代 2018.3 「なぜ『深さ』が大切なのか—能力・学習・評価のつながりから考える—」福岡県高等学校教育委員会『高教研通信』No. 167, 1-15.
- ・松下佳代 2018.3 「ディープ・アクティブラーニングの展開」『全国高等教育研究所等協議会 News Letter』No. 9, 1. (新聞記事)
- ・松下佳代 2017.11 「『協力し問題解決』日本2位—OECD 調査52ヵ国・地域15歳対象—」『朝日新聞（社会欄）』.
- ・松下佳代 2017.11 「『協力し解決』日本2位—15歳学習到達度調査—」『読売新聞（社会欄）』.
- ・松下佳代 2018.3.20 「ゆとり・学力 揺れた政策」『朝日新聞（その他）』19面.
- ・松下佳代 2018.3.26 「PISA が問う いま必要な学力」『朝日新聞（教育欄）』30面.

【学会発表】

- ・松下佳代・山田勉・武田佳子・杉山芳生 2017.6.11 「アクティブラーニングの評価の論点と課題」大学教育学会第39回大会，広島大学総合科学部.
- ・小野和宏・斎藤有吾・松下佳代 2017.6.11 「PBLの学習成果を評価する改良版トリプルジャンプに対する学生の認識」大学教育学会第39回大会，広島大学総合科学部.
- ・斎藤有吾・小野和宏・松下佳代 2017.6.11 「ルーブリックを活用したワークシートの振り返りの記述内容と学生の自己評価能力の変容との関連の検討—新潟大学歯学部におけるPBLの評価を事例として—」大学教育学会第39回大会，広島大学総合科学部.
- ・平山朋子・松下佳代 2017.6.11 「理学療法学教育プログラムにおけるパフォーマンス評価と学生の学び」大学教育学会第39回大会，広島大学総合科学部.
- ・松下佳代 2017.6.17 「二つのディープラーニング—〈新しい能力〉と知識—」教育目標・評価学会 2017年度中間研究集会「AI（人工知能）時代における公教育—求められる能力と学校の役割—」，東洋大学白山キャンパス.
- ・松下佳代 2017.8.6 「『深い関与』を促す方法としてのmessing about」日本理科教育学会第67回全国大会，福岡教育大学.
- ・飯尾健・溝口侑・和田翔二郎・松下佳代 2017.12.2 「アクティブラーニング・スペクトラムの開発」大学教育学会2017年度課題研究集会，関西国際大学.
- ・松下佳代 2018.3.21 「分野横断性としての汎用性—大学版『知の理論』への期待—」第24回大学教育研究フォーラム・参加者企画セッション「日本における大学版『知の理論』の可能性」，京都大学.
- ・長沼祥太郎・杉山芳生・澁川幸加・浅川裕子・Jeong Hanmo・土岐智賀子・山田勉・松下佳代 2018.3.21 「実行可能性を考慮したデジタル・リテラシー評価の開発」第24回大学教育研究フォーラム，京都大学.
- ・飯尾健・香西佳美・溝口侑・大森俊典・渡邊智也・平山朋子・小山理子・松下佳代 2018.3.21 「メディア情報リテラシーのパフォーマンス評価の開発」第24回大学教育研究フォーラム，京都大学.

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・ILAS セミナー「学力・学校・社会」（前期）

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究A・B」（教育学研究科，前・後期）
- ・「高等教育方法演習A・B」（教育学研究科，前・後期）
- ・「高等教育開発論基礎」（教育学研究科，前期）
- ・研究科横断型教育プログラム「大学で教えるということ」（教育学研究科，後期）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・京都大学点検・評価実行委員会委員

- ・センター自己点検評価委員会委員
- ・京都大学男女共同参画推進センター ワーキンググループ事業推進員
- ・FD 研究検討委員会委員
- ・博士学位論文調査委員 (斎藤有吾, 長沼祥太郎)

【社会活動】

- ・日本学術会議連携会員 (～2017 年 10 月 2 日), 会員 (2017 年 10 月 3 日～)
- ・大学教育学会理事, 学会誌編集委員長, 奨励賞選考委員会委員
- ・日本カリキュラム学会理事, 事務局長 (～2017 年 6 月 23 日), 代表理事 (2017 年 6 月 24 日～)
- ・日本教育方法学会理事
- ・教育目標・評価学会理事
- ・山口大学大学教育再生加速プログラム (AP 事業) アドバイザー
- ・関西大学教育再生加速プログラム (AP 事業) スーパーバイザー
- ・山梨学院大学附属小学校学習カリキュラムセンター客員研究員
- ・東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所共同研究「子どもの生活と学び」研究プロジェクト推進会議委員
- ・高槻中学校・高等学校 SGH 運営指導委員、アドバイザー
- ・国立教育政策研究所「チューニングによる大学教育のグローバル質保証—テスト問題バンクの取組—」委員

【講演】

- ・松下佳代 2017.4.28 「未来につながる学びへのアプローチ」高槻中学校新入生歓迎講演会, 高槻中学・高等学校.
- ・松下佳代 2017.5.30 「ミネルバ大学の試みは日本の大学教育に何を示唆するか」京都大学高等教育研究開発推進センター主催国際シンポジウム「大学教育の創造的破壊と未来—世界最先端の次世代教育が仕掛けるエリート教育を探る—」 (“Creative Destruction and the Future of Higher Education”), 京都大学芝蘭会館.
- ・松下佳代 2017.6.16 「学習の質の評価のためのパフォーマンス」滋賀県立大学人間看護学部研修会, 滋賀県立大学.
- ・松下佳代 2017.6.19 「医療系のためのパフォーマンス評価」平成 29 年度 FD 講演会 (大学 AP), 京都光華女子大学.
- ・松下佳代 2017.6.29 「アクティブラーニング型授業の評価について」平成 29 年度兵庫県立高等学校 教務部長会, 兵庫県立教育研修所.
- ・松下佳代 2017.6.30 「アクティブラーニングの評価を拓く—『資質・能力』との関係から—」教職員研修未来研究会①「探究型学習—その評価と育成される資質・能力」, ふたば未来学園高等学校.
- ・松下佳代 2017.7.25 「ディープ・ラーニングとパフォーマンス評価」平成 29 年度京都府立高等学校教務部長会夏季研修会, 京都府総合教育センター.
- ・松下佳代 2017.8.6 「『深い関与』を促す方法としての missing about」日本理科教育学会第 67 回全国大会, 福岡教育大学.
- ・松下佳代 2017.8.18 「この 10 年を振り返って—能力・学習・評価—」大学生研究フォーラム 2017, 京都大学.
- ・松下佳代 2017.8.22 「大学を取り巻く状況と多様な授業実践」大学院生のための教育実践講座 2017, 京都大学.
- ・松下佳代 2017.8.28 「『深い学び』とは—理科教育の場合—」東京学芸大学附属小金井中学校.
- ・松本佳代 2017.9.14 「学生の学びをどう評価するか—パフォーマンス評価を中心に—」金沢星稜大学 FD 全体研修・講演会, 金沢星稜大学.
- ・松下佳代 2017.9.17 「大学におけるパフォーマンス評価の理論と方法—何のためのルーブリックか—」松本大学松商短期大学部第 2 回 AP フォーラム「教育手法の改善とその評価」, 松本大学.
- ・松下佳代 2017.10.14 「なぜ『深さ』が重要なのか—能力・学習・評価のつながりから考える—」平成 29 年度中学校・高等学校教育研究大会, 広島大学附属中高等学校.
- ・松下佳代 2017.10.27 「大学を取り巻く状況と大学教育の改革」三井業際研究所勉強会, 三井業際研究所.
- ・松下佳代 2017.10.31 “Feedback to Enhance Learning” シンガポール教育省語学センターセミナー, MOELC Bishan Campus (シンガポール).
- ・松下佳代 2017.11.2 「長期的ルーブリックの作成における『スキル』の概念」高槻中・高 全体研修, 高槻中学・高等学校.
- ・松下佳代 2017.11.17 「『深い学び』への多様なアプローチ—『教科の本質』を踏まえて—」東京学芸大学附属小金井中

学校 平成 29 年度教育研究協議会，東京学芸大学附属小金井中学校。

- ・松下佳代 2017.11.22 「学習のための評価—学習成果の評価と活用—」神奈川大学自己点検・評価委員会講演会，神奈川大学。
- ・松下佳代 2017.11.27 「『深い学び』のための評価」教職員アクティブラーニング研修，京都府立桂高等学校。
- ・松下佳代 2017.12.16 「グローバルな機能的リテラシーとしての PISA—日本の教育改革への影響の批判的検討—」IGC 国際シンポジウム 2017（第 37 回）「今こそ PISA を問い直す：学力のグローバル・スタンダードをめぐるポリティクス」，上智大学グローバル・コンサーン研究所。
- ・松下佳代 2017.12.19 「アクティブラーニングに深さを加える—ディープ・アクティブラーニングの理論と方法—」奈良女子大学全学 FD 研修会，奈良女子大学。
- ・松下佳代 2017.12.23 「なぜ『深さ』が必要なのか—能力・学習・評価のつながりから考える—」ERP 教育研究所第 7 回高大接続研究会，たかつガーデン。
- ・松下佳代 2018.1.27 「なぜ『深さ』が大切なのか—能力・学習・評価のつながりから考える—」平成 29 年度福岡県高等学校教育研究会研究発表大会・講演会，福岡リーセントホテル。
- ・松下佳代 2018.2.7 「ディープ・アクティブラーニングの現状と課題」全国高等教育研究所等協議会 HU 高等教育研究センター，兵庫大学。
- ・松下佳代 2018.2.9 「初等教育において目指すべき『ディープ・アクティブラーニング』とは」京都市立葵小学校研究発表会，京都市立葵小学校。
- ・松下佳代 2018.2.17 「深い学びを軸にした資質・能力の育成」高槻中学校・高等学校第 2 回アクティブラーニング公開研究会，高槻中学・高等学校。
- ・松下佳代 2018.2.23 「ディープ・アクティブラーニングへの誘い—『資質・能力』と学びをつなぐ—」お茶の水女子大学附属小学校第 80 回教育実習指導研究会，お茶の水女子大学附属小学校。
- ・松下佳代 2018.2.26 「ディープ・アクティブラーニングの理論と実践」神戸学院大学 FD セミナー，神戸学院大学ポートアイランドキャンパス。
- ・松下佳代 2018.3.4 「高次の能力を捉えるための評価—パフォーマンス評価のデザイン—」大学コンソーシアム京都第 23 回 FD フォーラム，京都産業大学。
- ・松下佳代 2018.3.14 「アクティブラーニング・少人数教育の方法」京都大学薬学部・SGD 演習に向けた FD 研修会，京都大学薬学部。
- ・松下佳代 2018.3.28 「科目レベルとプログラムレベルの評価をつなぐために」国際シンポジウム「学習成果の評価と学習改善—科目レベルとプログラムレベルの評価をつなぐ—」京都大学。

溝上 慎一（教授）

1. 研究業績

【著書】

- ・溝上慎一 2017.5 「アクティブラーニング型授業としての反転授業」森朋子・溝上慎一（編）『アクティブラーニング型授業としての反転授業 [理論編]』ナカニシヤ出版，1-15。
- ・森朋子・溝上慎一（編）2017.5 『アクティブラーニング型授業としての反転授業 [理論編]』ナカニシヤ出版
- ・森朋子・溝上慎一（編）2017.5 『アクティブラーニング型授業としての反転授業 [実践編]』ナカニシヤ出版
- ・溝上慎一・保田江美 2017.4 「学校から仕事へのトランジション」中原淳（編）『人材開発研究大全』東京大学出版会，77-96。
- ・溝上慎一 2017.5 「アクティブラーニング論から授業ユニバーサルデザインに接続して」授業 UD 研究，第 3 号，4-12。
- ・日本青年心理学会（企画）大野久・小塩真司・佐藤有耕・白井利明・平石賢二・溝上慎一・三好昭子・若松養亮 2017.11 「君の悩みに答えよう—青年心理学者と考える 10 代・20 代のための生きるヒント—」福村出版
- ・溝上慎一（責任編集）京都大学高等教育研究開発推進センター・河合塾（編）2018.2 『高大接続の本質—「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題—」学事出版
- ・溝上慎一 2018.2 『アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性（学びと成長の講話シリーズ 1）』東信堂

【論文】

- ・ Helve, H., Côté, J., Svynarenko, A., Sinsalo-Juha, E., Mizokami, S., Roberts, S. E., & Nakama, R. 2017. Identity horizons among Finnish post-secondary students: A comparative analysis. *Identity*, 17(3), 191–206.
- ・ 溝上慎一 2017.5 「アクティブラーニング（外化）尺度の開発」大学教育学会誌, 39(1), 28–31.
- ・ Mizokami, S. 2017.10 Deep active learning from the perspective of active learning theory. In K. Matsushita (Ed.) *Deep active-learning: Toward greater depth in university education*. Singapore: Springer, 79–91
- ・ 紺田広明・三保紀裕・本田周二・山田嘉徳・森朋子・溝上慎一 2017.11 「アクティブラーニング型授業における予習と外化の効果—マルチレベル SEM による実証的検討—」大学教育学会誌, 第 39 巻第 2 号, 39–47.
- ・ 小山理子・溝上慎一 2018.3 「『講義への取り組み方』と『アクティブラーニングへの取り組み方』が学習成果に与える影響」日本教育工学会論文誌, 第 41 巻第 4 号, 375–383.
- ・ 関朋昭・溝上慎一 2018.3 「部活動は『チームで働く力』を本当に育むのか—全国規模のパネル調査を通して—」名寄市立大学紀要, 第 12 号, 1–10.

【その他の著作物】

- ・ 溝上慎一 2018.2 「大学生の学びと成長—トランジションの観点から—」IDE（現代の高等教育）, No. 598, 4–9.

【学会発表】

- ・ 本田周二・溝上慎一（企画） 2017.6.10 ラウンドテーブル「アクティブラーニングの組織的導入の意義とその効果」大学教育学会第 39 回大会, 広島大学
- ・ 森朋子・茂木寛子・宮本裕美子・本田周二・山田嘉徳・紺田広明・三保紀裕・佐藤透・溝上慎一 2017.9.16 「アクティブラーニングを活性化する CSCL—高校における生物の授業でのラベリングに注目して—」日本教育工学会第 33 回全国大会, 島根大学
- ・ 溝上慎一 2017.9.30 「京都大学の講義科目『自己形成の心理学』の AL 型授業—ブレポスト調査の変化から—」アクティブラーニング型授業 高校大学による事例報告会, 関西大学梅田キャンパス
- ・ 溝口侑・溝上慎一 2017.11.26 「大学生のキャリア意識とロールモデルの関係」日本青年心理学会第 25 回大会, 岐阜聖徳学園大学
- ・ 本田周二・溝上慎一（企画） 2018.3.21 「3 年間の調査から見てきたアクティブラーニング型授業の学習効果」第 24 回大学教育研究フォーラム参加者企画セッション, 京都大学

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「自己形成の心理学」（前期）

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科, 前・後期）
- ・「高等教育開発論基礎」（教育学研究科, 前期）
- ・「青年期の自己・アイデンティティ形成」（教育学研究科, 後期）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ FD 研究検討委員会
- ・ 大学評価委員会
- ・ 吉田南交通委員会委員（副委員長）

【社会活動】

- ・ 文部科学省中央教育審議会大学分科会 制度・教育改革ワーキンググループ委員（2017 年～）
- ・ 大学教育学会『大学教育学会誌』編集委員
- ・ 日本青年心理学会『青年心理学研究』編集委員

- ・教育再生加速プログラム委員会専門委員
- ・大学教育学会理事
- ・日本青年心理学会常任理事
- ・Journal of Adolescence, Editorial Board 委員
- ・学校法人河合塾教育イノベーション本部アドバイザーボード
- ・京都市立西京高等学校 SGH 運営指導委員
- ・産業能率大学 AP 実行委員会外部委員
- ・学校法人桐蔭学園教育顧問
- ・大阪府立大学大学再生加速プログラム（AP）外部評価委員
- ・龍谷大学経済学部授業内 PS 有識者会議委員（2017 年～）

【講演】

- ・溝上慎一 2017.4.5 「アクティブラーニング型授業への組織的転換」花園中学高等学校講演
- ・溝上慎一 2017.4.24 「アクティブラーニング型授業への転換」帝塚山学院中学高校講演
- ・溝上慎一 2017.5.8 「高大接続，仕事・社会へのトランジションを目指したアクティブラーニング型授業への転換」岐阜県岐阜北高等学校講演
- ・溝上慎一 2017.5.24 「求められる対人関係支援—高大接続・アクティブラーニングの改革を通して—」東海・北陸・近畿地区学生指導研究会総会講演
- ・溝上慎一 2017.5.26 「深い学びに落とし込むアクティブラーニング型授業の推進」岐阜県各務原西高等学校校内研修会講演
- ・溝上慎一 2017.5.27 「立命館大学における附属校出身学生の『学びと成長』調査を評価する」立命館 2017 年度第 1 回スクール・リーダー研修
- ・溝上慎一 2017.5.29 「学びをつなぐ『アクティブ・ラーニング』」平成 29 年度奈良県立教育研究所“教育セミナー2017”基調講演
- ・溝上慎一 2017.6.5 「基礎学力向上に向けてのアクティブラーニング型授業の推進」滋賀県立玉川高校講演
- ・溝上慎一 2017.6.11 「アクティブラーニング型授業の基礎—教師と学生との関係性・身体性に焦点を当てて—」大学教育学会第 39 回大会ポストワークショップ 講師
- ・溝上慎一 2017.6.17 「なぜチョーク&トークの授業法を変えなければならないか—全国のアクティブラーニング型授業の展開と評価—」京都高校社会科研究会講演
- ・溝上慎一 2017.6.19 「アクティブラーニング型授業への転換と先に見ていること」平成 29 年度大阪私立中学校高等学校連合会校長合同部会定例会（第 1 回）
- ・溝上慎一 2017.6.22 「主体的・対話的な授業実践を行うために」大阪府立岸和田高等学校校内研修
- ・溝上慎一 2017.6.23 「深い学びを創り出すアクティブラーニングのすすめ方」石川県教員総合研修センター講演
- ・溝上慎一 2017.6.26 「深い学びとアクティブ・ラーニング」京都府総合教育センター平成 29 年度研修講座講義
- ・溝上慎一 2017.6.29 「トランジションを見据えたアクティブラーニングの視点からの授業改革」名城大学附属高等学校講演
- ・溝上慎一 2017.7.6 「大学で学び成長し，仕事・社会で活躍できるのはどんな高校生？—大規模データと文科省施策をふまえて—」岡山県立倉敷天城中学校・高等学校 PTA 東雲の会講演会
- ・溝上慎一 2017.7.7 「2018 年度花園学園アクティブラーニング型授業への組織的転換に向けて—先行委員の 3ヶ月の成果より—」花園学園中学校・高等学校講演
- ・溝上慎一 2017.7.14 「アクティブラーニング型授業への転換—高等教育，そして仕事・社会への移行をにらんで—」金沢市立工業高校講演
- ・溝上慎一 2017.7.15 「アクティブラーニングを通して大学・仕事・社会へと繋げる」ランズ東京会場講演
- ・溝上慎一 2017.7.17 「アクティブラーニングの進め方について」日本商業教育学会兵庫支部研究会講演
- ・溝上慎一 2017.7.25 「アクティブラーニング型授業の組織的推進に向けて」群馬県立桐生高等学校講演
- ・溝上慎一 2017.7.26 「将来のための大学での学びかた—アクティブラーニングとトランジション—」名寄市立大学特別

講義

- ・溝上慎一 2017.8.6 「高大接続とアクティブラーニング」第3回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ講演
- ・溝上慎一 2017.8.10 「アクティブラーニング型授業の組織的推進に向けて」金城学院中学高等学校講演
- ・溝上慎一 2017.8.11 「学校全体を通しての授業改革」第1回キャリア教育フォーラム（ユマニテク短期大学主催）講演
- ・溝上慎一 2017.8.18 「10年間の大学生研究フォーラムをふり返って」大学生研究フォーラム2017講演
- ・溝上慎一 2017.8.22 平成29年度第2回「授業力向上推進」研修会「講評」神奈川県立港北高等学校
- ・溝上慎一 2017.8.25 「高校生の基礎学力定着に向けた学習改善のための調査研究事業」校内研修会「講評」山形県立庄内総合高校
- ・溝上慎一 2017.8.31 「学習者としての主体形成を目指すアクティブラーニング」大学英語教育学会第56回国際大会特別講演
- ・溝上慎一 2017.8.31 「(学校から仕事・社会の) トランジションのための(英語)学習を目指して」大学英語教育学会第56回国際大会シンポジウム「学習とは？」報告
- ・溝上慎一 2017.9.2 「今なぜアクティブラーニングか—社会的背景とその用語の持つ意味—」平成29年度ふくたん特別講演会
- ・溝上慎一 2017.9.30 「アクティブラーニング型授業の推進と展開・課題」アクティブラーニング型授業高校と大学による事例報告会（関西大学）総括講演
- ・溝上慎一 2017.10.2 「アクティブラーニングの効果とその検証」平成29年度三重大学全学FD講演
- ・溝上慎一 2017.10.6 「アクティブラーニング型授業の組織的展開」長崎県立長崎東中学・高等学校第4回授業研究会講演
- ・溝上慎一 2017.10.14 「『探究型学習』を実現するためのアクティブラーニングについて」山形県教育センター平成29年度「カリキュラムサポート事業 特別講座」講演
- ・溝上慎一 2017.11.1 「アクティブラーニング型授業の推進と展開・課題」龍谷大学経済学部FD報告会
- ・溝上慎一 2017.11.3 「アクティブラーニング型授業の実践—どのように目指すか—」南丹・船井中学校学校管理研究会講演
- ・溝上慎一 2017.11.5 「オープニングアクティビティ」日本青少年育成協会主催「教育コーチングをベースとしたアクティブラーニング実践フォーラム2017」講演
- ・溝上慎一 2017.11.11 「幼稚園から小学校、そして中学校へのトランジションリレー—カリキュラム・マネジメントとアセスメント—」関東地区私立小学校教員研修会講演@桐蔭学園小学部
- ・溝上慎一 2017.11.17 「高校生の基礎学力定着に向けた学習改善のための調査研究事業」第2回校内研修会「講義&講評」山形県立庄内総合高校
- ・溝上慎一 2017.12.9 「高校・大学から仕事・社会へのトランジション—アクティブラーニングとキャリア教育の観点から—」日本キャリアデザイン学会関西支部研究会講演
- ・溝上慎一 2017.12.11 「アクティブラーニング型授業の組織的展開—講評&ボイス・アクティブラーニングをふまえて—」長崎県立口加高等学校講演
- ・溝上慎一 2017.12.14 「アクティブラーニング型授業の組織的転換とカリキュラム・マネジメント」岐阜県立大垣西高等学校教職員研修会講演
- ・溝上慎一 2017.12.15 「講評」大阪府立岸和田高等学校研修会講演
- ・溝上慎一 2017.12.22 「進学校におけるアクティブラーニング型授業への組織的転換」兵庫県立加古川東高等学校教職員研修講師
- ・溝上慎一 2017.12.27 「アクティブラーニング型授業の組織的推進に向けて」静岡福祉大学FD研修会講師
- ・溝上慎一 2018.1.7 「アクティブラーニング、学びと成長をデータで見る」東京大学教育学研究科附属教育高度化・効果検証センターシンポジウム報告
- ・溝上慎一 2018.1.11 「トランジションをにらんでアクティブラーニング型授業への組織的転換」徳山工業高等専門学校講演会講師
- ・溝上慎一 2018.1.19 「学生の学びと成長を実現する教育を一離学率，クラス担任制，教職協働をふまえて—」大阪産業大学講演

- ・溝上慎一 2018.1.23 「深い学びとアクティブ・ラーニング」京都市乙訓地方校長会主催講演会
- ・溝上慎一 2018.1.27 「講評—全国のアクティブラーニング型授業の組織的展開の視点から—」東山中学・高等学校講演
- ・溝上慎一 2018.1.30 「アクティブラーニング型授業の展開と課題」平成 29 年度静岡県と市立高等学校合同研修会講演
- ・溝上慎一 2018.2.8 「資質・能力を育むための『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」平成 29 年度（第 61 回）岩手県教育研究発表会講演・講評
- ・溝上慎一 2018.2.15 「アクティブ・ラーニング型授業の組織的転換に向けて—2030 年社会に開かれた教育課程—」平成 29 年度愛媛県立学校管理職研修会講師
- ・溝上慎一 2018.2.22 「アクティブラーニング型授業の効果検証」名桜大学リベラルアーツ機構 FD 研修会講師
- ・溝上慎一 2018.3.5 「トランジションを見据えた組織的なアクティブラーニング型授業への転換」近畿大学平成 29 年度第 2 回 FD 研究集会講師
- ・溝上慎一 2018.3.6 「花園中学高校のアクティブラーニング型授業推進に向けて」花園中学高等学校 AL 先行委員研修会講師
- ・溝上慎一 2018.3.11 「受講するとわかるキャリア教育が学習や成長に繋がる理由」他進路指導・キャリア教育支援機構主催キャリア教育セミナー講演
- ・溝上慎一 2018.3.14 「トランジションを見据えたアクティブラーニング型授業への組織的転換」福岡工業大学 AP 中間成果報告会講演
- ・溝上慎一 2018.3.25 「トランジションを見据えた組織的なアクティブラーニング型授業への転換」日本アクティブ・ラーニング学会 第 2 回全国大会基調講演 1

【その他】

（新聞・雑誌）

- ・溝上慎一 2017.4.18 「『深い学び』工夫を重ね」『産経新聞』
- ・溝上慎一 2017.4.21 「力強く生きる大人を育てるために」光村図書『国語教育相談室』No. 83.
- ・溝上慎一 2017.4.26 「アクティブ・ラーニングにおける深い学び」開隆堂『家庭科教育のこれからを考える KGK JOURNAL』Vol. 52-1.
- ・溝上慎一 2017.5.11 「アクティブ・ラーニング『協働する力』磨いて」『岐阜新聞』
- ・溝上慎一 2017.5.12 「主体的な学び どう培う」『中日新聞』
- ・溝上慎一 2017.5.23 「高校から大学・社会へのトランジションをめざした高大接続改革」ERP 教育研究所『教育 PRO』No. 12.
- ・溝上慎一 2017.8 「新学習指導要領とアクティブ・ラーニング」『教育と医学』2017 年 8 月
- ・溝上慎一 2017.11.10 「『新しい学び』の第一歩は自己の測定、診断から」（河合塾 PR）『国公立大学 byAERA2018』
- ・溝上慎一 2018.2 「これまでの大学教育改革と学生の学びと成長—大学は学生を育てられていない—」『教育展望』2018 年 1・2 合併号
- ・溝上慎一 2018.2 「これからの社会を見通した授業改善を（上）」『月刊 高校教育』2018 年 2 月号
- ・溝上慎一 2018.2 「大学生の学びと成長—トランジションの観点から—」『IDE（現代の高等教育）』2018 年 2-3 月号
- ・溝上慎一 2018.2 「アクティブラーニングと学校図書館の新しい機能」『図書館雑誌』2018 年 2 月号
- ・溝上慎一 2018.3 「これからの社会を見通した授業改善を（下）」『月刊 高校教育』2018 年 3 月号
- ・溝上慎一 2018.3 「主体的・対話的で深い学び」『指導と評価』2018 年 3 月号

田口 真奈（准教授）

1. 研究業績

【著書】

- ・Mana Taguchi & Kayo Matsushita 2017.9 “Deep Learning Using Concept Maps: Experiment in an Introductory Philosophy “Course” “Deep Active Learning Toward Greater Depth in University Education” Springer, 137–158.

【論文】

- ・田口真奈・福田宗太郎 2018.2 「コースデザインと授業実践を含むプレ FD プログラムの開発—大学コンソーシアム京

都における『人文学入門』を対象に一」日本教育工学会論文誌, 第 41 巻増刊号, 153-156.

- ・香西佳美・田口真奈 2018.3 「MOOC での授業実践の経験を通した大学教員の授業力量形成—Technological Pedagogical Content Knowledge (TPACK) の形成に着目して—」日本教育工学会論文誌, 第 41 巻第 4 号, 449-460.

【その他の著作物】

(報告書)

- ・田口真奈・斎藤有吾 2018.3 「Ⅱ. 教育・授業改善, FD 4. プレ FD」京都大学高等教育研究開発推進センター『CPEHE Annual Report 2017』, 10-11.
- ・田口真奈・松下佳代 2018.3 「Ⅱ. 教育・授業改善, FD 5. 他部局との連携 (1) 宇宙総合学研究ユニットとの連携」同上, 14.
- ・田口真奈・鈴木健雄・河野亘 2018.3 「Ⅳ. ICT の教育的活用 4. 教育コンテンツ活用推進委員会」同上, 22-24.
- ・岡本雅子・田口真奈・酒井博之・飯吉透 2018.3 「Ⅳ. ICT の教育的活用 5. MOST (オンライン FD 支援システム)」同上, 25.
- ・田口真奈・鈴木健雄・河野亘 2018.3 「Ⅳ. ICT の教育的活用 6. ICT 活用のためのポータルサイト (CONNECT)」同上, 26-28.
- ・田口真奈・河合直樹 2018.3 「Ⅳ. ICT の教育的活用 6. 高大接続を促進するためのポータルサイト (KNOT)」同上, 29-30.
- ・田口真奈 2018.3 「一京都大学を目指すあなたへ—研究者からの言葉 それは未来につながるメッセージ」『未来につながる青いリボンのエトセトラ』第 4 号, 京都大学男女共同参画推進本部 (男女共同参画推進センター)

【学会発表】

- ・辻靖彦・稲葉利江子・高比良美詠子・田口真奈 2017.8.23 「日本の大学における ICT 環境とサービスが ICT 導入の効果に与える影響」第 42 回教育システム情報学会, 北九州国際会議場
- ・斎藤有吾・田口真奈 2017.9.16 「MOOC における受講者の掲示板利用のログデータ分析の方向性」日本教育工学会第 33 回全国大会, 島根大学
- ・香西佳美・田口真奈 2017.9.17 「プレ FD プログラムにおける授業検討会の意義と限界—授業検討会における談話の変化に着目して—」日本教育工学会第 33 回全国大会, 島根大学
- ・鈴木健雄・田口真奈・河野亘・飯吉透 2017.9.17 「ICT 活用教育のためのポータルサイト『CONNECT』の構築」日本教育工学会第 33 回全国大会, 島根大学
- ・瀧川幸加・田口真奈 2017.9.18 「反転授業におけるワークシートの利用が対面授業時のグループディスカッションの発言内容に与える影響」日本教育工学会第 33 回全国大会, 島根大学
- ・田口真奈・後藤崇志・斎藤有吾 2017.9.18 「MOOC におけるオンライン学習コミュニティへの所属意識に関する研究」日本教育工学会第 33 回全国大会, 島根大学
- ・Yasuhiko Tsuji, Rieko Inaba, Mieko Takahira & Mana Taguchi 2017.12 “A secular trend analysis of the effects of using ICT in university education”, Proceedings of the 25th International Conference on Computers in Education (ICCE 2017), pp. 1039-1041.
- ・稲葉利江子・高比良美詠子・辻靖彦・田口真奈 2018.3.20 「潜在成長モデルを用いた大学の ICT 利活用変化の分析—技術支援体制の経年変化に与える影響要因の抽出—」第 24 回大学教育研究フォーラム, 京都大学
- ・辻靖彦・稲葉利江子・高比良美詠子・田口真奈 2018.3.20 「技術的・教育的支援体制の有無と大学規模における大学の ICT 導入効果の違い」第 24 回大学教育研究フォーラム, 京都大学

2. 教育活動

【学内】

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科, 前・後期)
- ・「高等教育文献講読演習 A」(教育学研究科, 前期)
- ・「高等教育システム演習 A」(教育学研究科, 前期)
- ・「高等教育開発論基礎」(教育学研究科, 前期)

- ・研究科横断型教育プログラム「大学で教えるということ」（教育学研究科，後期）

3. その他活動

【学内委員】

- ・教育学研究科 学生委員
- ・教育コンテンツ活用委員会 委員

【社会活動】

- ・日本教育工学会 編集委員

【講演・シンポジウムなど】

- ・田口真奈 2017.5.30 「京都大学の取り組み」国際シンポジウム「大学教育の創造的破壊と未来—世界最先端の次世代大学が仕掛けるエリート教育を探る—（活動報告）」第92回京都大学高等教育研究開発推進センター公開研究会，京都大学
- ・田口真奈 2017.7.30 「女性研究者の生き方のバラエティー—世代・分野の枠を超えて語ろう」女性研究者の会・京都ワークショップ with 生きやすさ応援実行委員会，芝蘭会館別館
- ・田口真奈 2017.8.18 大学生研究フォーラム 2017（分科会3：地域との連携）ファシリテーター，京都大学
- ・田口真奈 2017.8.19 「京大の教育コンテンツについて—OCW と MOOC—」理科教員のための ICT を活用した高大接続ワークショップ—京大の教育コンテンツを授業で使ってみよう，高槻中学校・高等学校
- ・田口真奈 2017.9.8 「高大接続（京大オープン教材）」（テーマ2：社会とつながる京都大学の教育：高大連携・地域連携），京都大学全学教育シンポジウム 2017，京都大学
- ・田口真奈 2017.9.14 「『深い学び』のためのアクティブラーニングを促す授業デザイン」関東学院大学教員研修会，関東学院大学
- ・田口真奈 2018.1.9 「オープンエデュケーションと京都大学 OCW」花園中学・高等学校
- ・田口真奈 2018.2.28 「大学におけるアクティブラーニングの意義と授業デザイン」福山市立大学 FD 講演会，福山市立大学
- ・田口真奈 2018.3.2 「京都大学における ICT 活用教育促進の取り組み：教育実践の見える化と共有を通じて」国際シンポジウム「ブレンディッドな次世代高等教育を展望する」，京都大学
- ・田口真奈 2018.3.18 「2017 年度京都大学現場で働く指導医のための医学教育学プログラム—基礎編—」外部評価者，京都大学外部評価者会議

酒井 博之（准教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・Shigeta, K., Koizumi, M., Sakai, H., Tsuji, Y., Inaba R., and Hiraoka, N. 2017.6 A survey of the awareness, offering, and adoption of OERs and MOOCs in Japan, Open Praxis, 9(2), 195-206. (<http://openpraxis.org/index.php/OpenPraxis/article/view/568>)

【学会発表】

- ・Tsuji, Y., Inaba, R., Sakai, H., Hiraoka, N., and Shigeta, K. 2017.8.3 Relationship between the desired effect of using ICT in education and the university's size in Japan, International Conference for Media in Education (ICoME 2017), The University of Hawaii at Manoa.（査読あり）
- ・酒井博之・稲葉利江子・辻靖彦・平岡斉士・小泉光世・重田勝介 2017.9.16 「高等教育機関における BYOD の組織的支援の現状について」日本教育工学会第33回全国大会講演論文集，161-162，島根大学
- ・稲葉利江子・酒井博之・辻靖彦・平岡斉士・小泉光世・重田勝介 2017.9.16 「高等教育機関における BYOD 導入とコスト意識の分析」日本教育工学会第33回全国大会講演論文集，111-112，島根大学
- ・辻靖彦・稲葉利江子・酒井博之・平岡斉士・小泉光世・重田勝介 2017.9.16 「日本の大学における BYOD 向け技術基盤の現状」日本教育工学会第33回全国大会講演論文集，201-202，島根大学
- ・酒井博之 2017.12.13 「高等教育機関等における BYOD の現状と提言—H28 年度調査の結果から—」（ICT 利活用調査部会企画セッション，話題提供，オーガナイザー：重田勝介），大学 ICT 推進協議会年次大会，広島国際会議場

- ・酒井博之・岡本雅子 2017.12.15 「MOOC における講義デザインとその支援に関する一考察」大学 ICT 推進協議会年次大会 (ポスターセッション), 広島国際会議場
- ・岡本雅子・酒井博之 2017.12.15 「MOOC 制作および運用の支援における実践的課題について」大学 ICT 推進協議会年次大会 (ポスターセッション), 広島国際会議場
- ・藤岡千也・岡本雅子・安宅純子・酒井博之 2017.12.15 「京都大学の MOOC におけるコースカタログの開発」大学 ICT 推進協議会年次大会 (ポスターセッション), 広島国際会議場
- ・稲葉利江子・辻靖彦・酒井博之・平岡斉士・小泉光世・重田勝介 2017.12.15 「高等教育機関におけるモバイル端末必携化の現状とコスト意識」大学 ICT 推進協議会年次大会 (ポスターセッション), 広島国際会議場
- ・平岡斉士・稲葉利江子・小泉光世・酒井博之・辻靖彦・重田勝介 2017.12.15 「BYOD 利活用教育実施状況調査に基づいた BYOD の導入主体とその目的」大学 ICT 推進協議会年次大会 (ポスターセッション), 広島国際会議場
- ・Inaba, R., Hiraoka, N., Tsuji, Y., Sakai, H., and Shigeta, K. 2018.1.6 Analysis of Introduction of BYOD in Higher Education in Japan, 16th Annual Hawaii International Conference on Education, Honolulu. (査読あり)

2. 教育活動

【学内】

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科, 前・後期)
- ・「高等教育開発論基礎」(教育学研究科, 前期, リレー講義)
- ・「高等教育文献講読演習」(教育学研究科, 前期)
- ・「高等教育システム演習」(教育学研究科, 前期)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・国際戦略本部国際化推進懇談会構成員

【社会活動】

- ・大学 ICT 推進協議会 研究員

【講演】

- ・酒井博之 2017.5.30 「京都大学の取り組み：MOOC を中心に」国際シンポジウム「大学教育の創造的破壊と未来—世界最先端の次世代大学が仕掛けるエリート教育を探る—(活動報告)」第 92 回京都大学高等教育研究開発推進センター公開研究会, 京都大学

山田 剛史 (准教授)

1. 研究業績

【著書】

- ・山田剛史 2017.11 「大学でどのように勉強したらいいかわかりません」大野久・小塩真司・佐藤有耕・白井利明・平石賢二・溝上慎一・三好昭子・若松養亮編『君の悩みに答えよう—青年心理学者と考える 10 代・20 代のための生きるヒント—』福村出版, 58-59.

【論文】

- ・山田剛史 2017.4 「学生支援と自立のパラドックス」『心理学ワールド』(日本心理学会), 第 77 号, 27-28.
- ・山田剛史 2018.3 「大学教育の質的転換と学生エンゲージメント」『名古屋高等教育研究』第 18 号, 155-176.
- ・山田剛史 2018.3 「学生エンゲージメントが拓く大学教育の可能性—改めて『誰のための』『何のための』教育改革を考える—」『第 3 回大学生の学習・生活実態調査報告書』(ベネッセ教育総合研究所), 31-39.

【その他の著作物】

- ・山田剛史 2017.10 「学びと指導の今後」東山アクティブ NEWS, 10 月号
- ・山田剛史 2017.11 「桐蔭学園 AL 公開研究会へ参加して—東山 AL の課題—」東山アクティブ NEWS, 11 月号

- ・ 山田剛史 2017.12 「アクティブラーニングに対する疑問・誤解を解消する」東山アクティブNEWS, 12月号
- ・ 山田剛史 2017.12 「人生を変えた一冊（特集：私の愛読書）」かりん：京都大学吉田南総合図書館報, No. 10, 12-13.
- ・ 山田剛史 2018.1 「魅力ある授業の演出方法」東山アクティブNEWS, 1月号
- ・ 山田剛史 2018.2 「東山ALの2年間を総括する」東山アクティブNEWS, 2月号
- ・ 山田剛史 2018.3 「高等学校学習指導要領の改定（案）のポイントを読む」東山アクティブNEWS, 3月号（報告書）
- ・ 山田剛史 2018.3 「Ⅱ. 教育・授業改善, FD: 1. 高等教育研究開発推進センターウェブサイトリニューアル」京都大学高等教育研究開発推進センター『CPEHE Annual Report 2017』, 2.
- ・ 山田剛史 2018.3 「Ⅱ. 教育・授業改善, FD: 3. 新任教員教育セミナー」同上, 6-9.
- ・ 山田剛史 2018.3 「Ⅱ. 教育・授業改善, FD: 3. 新任教員教育セミナー」同上, 6-9.
- ・ 山田剛史 2018.3 「Ⅱ. 教育・授業改善, FD: 4. プレFD（4）研究科横断型教育プログラム『大学で教えるということ』」同上, 13.
- ・ 松下佳代・山田剛史 2018.3 「Ⅱ. 教育・授業改善, FD: 5. 他部局との連携（2）医学教育・国際化推進センターとの連携」同上, 15.
- ・ 山田剛史・溝上慎一 2018.3 「Ⅳ. 教育アセスメント」同上, 31-32.

【学会発表】

- ・ 山田剛史 2017.7.21 「データを用いた教育開発の進め方」平成29年度第1回JAED研究会報告, 京都大学
- ・ 溝口侑・山田剛史 2017.9.7 「大学での授業に対する取り組みから考える成長する学生の経験」初年次教育学会第10回大会, 中部大学
- ・ 川内亜希子・山田剛史 2018.3.20 「京都大学における高大連携事業の特徴とその効果—京都大学高大連携事業『学びコーディネーター』を事例として—」第23回大学教育研究フォーラム, 京都大学

2. 教育活動

【学内】

③大学院教育

- ・ 「高等教育開発論研究A・B」（教育学研究科, 前・後期）
- ・ 「高等教育開発論基礎」（教育学研究科, 前期）
- ・ 「高等教育研究法A・B」（教育学研究科, 前・後期）
- ・ 研究科横断型教育プログラム「大学で教えるということ」（教育学研究科, 後期）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ FD研究検討委員会委員
- ・ 京都大学吉田南構内安全衛生委員会委員（衛生管理者）
- ・ 研究公正推進委員会委員
- ・ 教育IR推進室 アンケート検討部会委員
- ・ 教育学研究科教務委員会委員
- ・ 教育学部特色入試追跡調査WG・メンバー

【社会活動】

- ・ 高等教育質保証学会・評議員
- ・ 初年次教育学会・理事
- ・ 大学教育学会・代議員
- ・ 大学教育学会編集委員会・幹事
- ・ 日本青年心理学会研究委員会・委員
- ・ 名古屋大学高等教育研究センター・客員准教授

- ・ 文部科学省大学改革推進補助事業「大学教育再生加速プログラム (AP)」評価委員会・委員
- ・ 共愛学園前橋国際大学平成 26 年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム (AP)」評価委員会・委員
- ・ 東京理科大学平成 26 年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム (AP)」評価委員会・委員
- ・ ベネッセ教育総合研究所「大学生研究会 (第 3 回大学生の学習・生活実態調査)」委員
- ・ 大学コンソーシアム京都「FD フォーラム企画検討委員会」委員
- ・ 東山中学・高等学校「学習力強化プロジェクト特別委員会」委員
- ・ IIAI International Conference on Institutional Research and Institutional Management (IIAI IRIM) Program Committee

【講演・研修】

- ・ 山田剛史 2017.6.8 「3つのポリシーとカリキュラム・マッピング」武蔵大学 FD 研修
- ・ 山田剛史 2017.6.15 「GPA 制度の概要—Wht, Why, How?—」第 5 回教育学研究科セミナー (京都大学)
- ・ 山田剛史 2017.6.22 「学生エンゲージメントと大学教育の質的転換—教学 IR をどう活用するか—」名古屋大学高等教育研究センター第 85 回客員教授セミナー
- ・ 山田剛史 2017.7.5 「3つのポリシー：改正の背景と作業上の留意点」京都産業大学研修会
- ・ 山田剛史 2017.7.8 「3つのポリシーに基づく学修成果の把握と可視化」東京理科大学 FD セミナー
- ・ 山田剛史 2017.7.15 「教育の質保証と三つのポリシーをどう理解し、実践するか」国士舘大学 FD シンポジウム
- ・ 溝上慎一・山田剛史 2017.7.31 「本学における教育・学習支援型 IR の展開—教学 IR の動向も踏まえて—」平成 29 年度第 1 回情報環境機構将来構想委員会 (京都大学)
- ・ 山田剛史 2017.8.8 「アクティブラーニングの組織的展開について—アクティブラーニングをどう理解し、実践するか—」東近江市立五個荘中学校校内研究会
- ・ 山田剛史 2017.8.18 大学生研究フォーラム 2017 (分科会 2：学びとキャリアの連携) ファシリテーター, 京都大学
- ・ 山田剛史 2017.8.21 「学習成果をどのように測定・可視化するか—カリキュラム・アセスメント作成ワークショップ—」福岡医療短期大学・久留米信愛女学院短期大学・共同 FD・SD 講演会
- ・ 山田剛史 2017.8.24 「学生の学びを促す学習評価の方法」SPOD フォーラム 2017, 徳島大学
- ・ 山田剛史 2017.9.13 「主体的な学びを促す学習評価の方法」佛教大学教員研修会
- ・ 山田剛史 2017.9.22 「学生エンゲージメントを高めるアクティブ・ラーニングの設計と組織的展開」三重大学教養教育機構アクティブ・ラーニングシンポジウム (基調講演)
- ・ 山田剛史 2017.10.20 「アクティブ・ラーニングをどう理解し、組織的に実践するか—教師と生徒がともに学び成長する学校へ—」全国私学教育研究会愛媛大会・教育課程部会基調講演, 松山全日空ホテル
- ・ 山田剛史 2017.11.2 「アセスメントをどう活かすか—誰のための何のためのアセスメントか—」追手門学院大学 FD スキルアップセミナー
- ・ 山田剛史 2017.11.7 「学習成果をどのように測定・可視化するか」宮崎公立大学 FD 研修会
- ・ 山田剛史 2017.12.18 「3つのポリシーと学習成果の評価方法」神戸常盤大学 FD・SD 研修会
- ・ 山田剛史 2018.1.5 「大学教育の質的転換と教学 IR の組織的展開」徳島大学主催・大学教育カンファレンス in 徳島 (特別講演)
- ・ 山田剛史 2018.1.27 「東山 AL 2 年目の挑戦—『学習する組織』をめざして—」東山中学・高等学校アクティブラーニング実践研究会 2017 (総括講演)
- ・ 山田剛史 2018.1.31 「学生の主体的学びを促す授業をデザインする—プラス 10 分を活かした授業づくり—」京都外国語大学教員研修
- ・ 山田剛史 2018.3.4 大学コンソーシアム京都主催・第 23 回 FD フォーラム (分科会・指定討論), 京都産業大学
- ・ 山田剛史 2018.3.10 ベネッセ教育総合研究所主催共創ワークショップ (全体進行等), TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター
- ・ 山田剛史 2018.3.15 「教育の内部質保証をどのように理解し、実践するか」和歌山大学全学 FD 研修会

斎藤 有吾（特定助教）

1. 研究業績

【論文】

- ・斎藤有吾・小野和宏・松下佳代 2017.11 「ループリックを活用した学生と教員の評価のズレに関する学生の振り返りの分析—PBLのパフォーマンス評価における学生の自己評価の変容に焦点を当てて—」『大学教育学会誌』第39巻第2号, 48-57.
- ・Cross, J., Ekawati, E., Fukahori, S., Obi, S., Saito, Y., Tandian, N., Triawan, F. 2017.11 Development of a mechanical engineering test item bank to promote learning outcomes-based education Japanese and Indonesian higher education institutions. *Tuning Journal for Higher Education*, 5(1), 41-73.
- ・畑野快・斎藤有吾 2017.2 「項目反応理論による主体的な学修態度尺度の特性分析」『日本教育工学会論文誌』第40巻第4号, 379-386.

【その他の著作物】

（一般雑誌）

- ・斎藤有吾 2017.11 「第10回大規模実施の結果—大学間の比較や教育・学習経験との関連の検討から得られる教育改善の示唆—（エンジニアリング教育の達成度評価～テスト問題バンクの取り組み～）」『日本機械学会誌』第120巻第1188号, 38-39.

（報告書）

- ・松下佳代・斎藤有吾 2018.3 「全学教育シンポジウム」京都大学高等教育研究開発推進センター『CPEHE Annual Report 2017』, 3-4.
- ・田口真奈・斎藤有吾 2018.3 「プレFD」同上, 11.
- ・松下佳代・斎藤有吾 2018.3 「大学院生のための教育実践講座」同上, 12.

【学会発表】

- ・山田剛史・斎藤有吾・松下佳代 2017.5.12 「京都大学における部局支援・協働型FD—教育学部における高大接続の取組を事例として—」関西地区FD連絡協議会第10回総会（ポスター発表），大阪大学.
- ・小野和宏・斎藤有吾・松下佳代 2017.6.11 「PBLの学習成果を評価する改良版トリプルジャンプに対する学生の認識」大学教育学会第39回大会（口頭発表），広島大学.
- ・斎藤有吾・小野和宏・松下佳代 2017.6.11 「ループリックを活用したワークシートの振り返りの記述内容と学生の自己評価能力の変容との関連の検討—新潟大学歯学部におけるPBLの評価を事例として—」大学教育学会第39回大会（口頭発表），広島大学.
- ・斎藤有吾・田口真奈 2017.9.17 「MOOCにおける受講者の掲示板利用のログデータ分析の方向性」第33回日本教育工学会全国大会（ポスター発表），島根大学.
- ・畑野快・斎藤有吾・長沼祥太郎 2017.9.17 「VALUE Rubricを参照したLearning Outcome Scale開発の試み」第33回日本教育工学会全国大会（ポスター発表），島根大学.
- ・田口真奈・斎藤有吾・後藤崇志 2017.9.18 「MOOCにおけるオンライン学習コミュニティへの所属意識に関する研究」第33回日本教育工学会全国大会（口頭発表），島根大学.
- ・斎藤有吾 2018.3.21 「質的評価・量的評価という分類の双方によるパフォーマンス評価への視座—信頼性・妥当性の議論を中心に—」第24回大学教育研究フォーラム（口頭発表），京都大学.

2. 教育活動

【学内】

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究A・B」（教育学研究科，前・後期）
- ・「高等教育開発論基礎」（教育学研究科，前期）

【学外】

- ・藍野大学医療保健学部「数学I」（前期）

- ・ 藍野大学医療保健学部「統計学Ⅰ」(前期)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 吉田南構内防火・防災委員会 委員
- ・ 吉田南構内安全衛生委員会 委員

【社会活動】

- ・ 国立教育政策研究所「チューニングによる大学教育のグローバル質保証—テスト問題バンクの取組—」委員
- ・ 大学コンソーシアム京都「FD フォーラム企画検討委員会」委員

【講演・シンポジウムなど】

- ・ 斎藤有吾 2017.8.31 「量的研究法の基礎と実践」滋賀県立膳所高等学校「探究」講演, 滋賀県立膳所高等学校.
- ・ 斎藤有吾 2018.3.4 大学コンソーシアム京都主催第22回FDフォーラム(分科会)コーディネーター, 京都産業大学.

第二部門(教育メディア研究開発部門)

土佐 尚子(教授) 兼

1. 研究業績

【報告書】

- ・ 土佐尚子 2018.2 京都市事業「『大学の知』を活かした多角的な市政研究事業」統括

【論文】

- ・ パン宇年・土佐尚子 2017.12 「音の振動で制作する新しい造形芸術創作方法の研究」『芸術科学会論文誌』第16巻第1号, 1-7.
- ・ Naoko Tosa, Pang Yunian, Liang Zhao, Ryohei Nakatsu 2017.8 “Genesis: New Media Art Created as a Visualization of Fluid Dynamics,” Entertainment Computing –ICEC2017, LNCS 10507, Springer, 3-13.
- ・ 土佐尚子・中津良平 2018.3 「日本文化とテクノロジー—テクノロジーを用いた日本美の探求と表現—」『感性工学』第16巻第1号, 12-20.

【学会発表】

- ・ Naoko Tosa 2017.6.8 “Looking for Japan” NICOGRAPH International 2017 Keynote (芸術科学会)
- ・ Naoko Tosa, Ryohei Nakatsu, Pang Yunian 2017.9.10-12 “Creation of Media Art Utilizing Fluid Dynamics,” 2017 International Conference on Culture and Computing, 129-135.
- ・ Yunian Pang, Liang Zhao, Ryohei Nakatsu, Naoko Tosa 2017.9.10-12 “A Study of Variable Control of Sound Vibration Form (SVF) for Media Art Creation,” 2017 International Conference on Culture and Computing, 136-142.

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・ ILAS セミナー「メディアアート(映画監督養成講座)」(前期)
- ・ 「Art, Culture and Technology」(後期)

③大学院教育

- ・ 「Art, Culture and Technology」(情報学研究科・後期)

【学外】

- ・ Open Education Consortium プレジデント(日本代表)
- ・ ジャパンオープンコースウェアコンソーシアム京都大学幹事
- ・ コンテンツパッケージ授業(京都市産業観光局新産業振興室)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・教育コンテンツ活用推進委員会 委員
- ・全学情報セキュリティ委員会 委員

【社会活動】

- ・文化庁による文化交流使の延長任命（2017.4）
- ・ニューヨーク・タイムス・スクエアでパブリックアートとしてビルボード 60 台に 4 月一ヶ月毎夜上映する Mid Night Moment に参加（2017.4）
- ・在ニューヨーク総領事館高橋総領事晩餐会主賓として出席（2017.4.12）

【講演】

- ・土佐尚子 2017.4.12 文化庁文化交流使として講演（在ニューヨーク総領事館公邸）
- ・土佐尚子 2017.5.31 特講「社会基盤としての芸術」（東京芸術大学）
- ・Naoko Tosa 2017.9.18 “Vision and Mind” Kyoto University and Goldsmiths, University of London Future Mind—International Symposium
- ・Naoko Tosa 2017.12.7 “Bridging the Divide Between Science and Culture: The Role of Human Survivability Studies” Sixth International Symposium on Human Survivability (GSAIS/ Shishukan), Kyoto University in collaboration with the Management of Social Transformations (MOST) programme, UNESCO
- ・土佐尚子 2018.2.2 「芸術と科学の融合」トップセミナー公益財団法人計算科学振興財団（FOCUS）
- ・Naoko Tosa 2018.2.27 “Invisible Beauty” Multi-media University, Kuala Lumpur, Malaysia
- ・Naoko Tosa 2018.2.28 “Art and Technology” Universiti Malaya, Kuala Lumpur, Malaysia

森村 吉貴（特定准教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・飯山将晃・中塚智尋・森村吉貴・橋本敦史・村上正行・美濃導彦 2017.4.1 「ペンストロークの時間間隔を用いた解答停滞箇所の検出」『教育システム情報学会誌』第 34 巻第 2 号, 166–171.

【その他の著作物】

（一般雑誌）

- ・村上正行・飯山将晃・森村吉貴・橋本敦史・美濃導彦 2017.4.1 「中学校でのタブレット活用による学習ログの取得と解析：京都 ICT 教育モデル構築プロジェクト」『J-LIS = ジェイリス：地方自治情報誌』第 4 巻第 1 号, 40–45.

【学会発表】

- ・Kei Kano, Eri Mizumachi, Katsuya Takanashi, Tamaki Motoki, Mikihiro Mori, Yoshitaka Morimura, Naonori Akiya, Ayami Joh, Yuko Ikkatai 2018.2.18 Development and Evaluation of Scientists’ Dialogue Skills Training Program, AAAS Annual Meeting, Austin
- ・森村吉貴・渥美紀寿・元木環・古村隆明・中井大介・松本直樹・岡本康洋・松本宗一郎・江崎文俊・中澤和紀 2017.12.15 「学生参与型プロトタイピングを導入した教務用スマホアプリ開発」大学 ICT 推進協議会 2017 年度年次大会, 広島国際会議場

2. 教育活動

【学外】

- ・京都外国語大学「情報技術の実践」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・情報環境機構将来構想委員会 委員
- ・情報環境機構運営検討委員会 委員

- ・情報環境機構運営委員会 委員
- ・情報環境機構情報セキュリティ委員会 委員
- ・情報環境機構基盤システム運用委員会 委員

【社会活動】

- ・システム制御情報学会 編集委員

【講演・シンポジウムなど】

- ・森村吉貴 2018.3.13 「映像コンテンツの社会応用と可能性を探る—自動撮影・権利保護・利用分析—」映像技術・IoT 技術のオープンイノベーションシンポジウム, 京都大学

岡本 雅子 (特定助教)

1. 研究業績

【その他の著作物】

- ・岡本雅子 2017.12 「写経プログラミングをめぐる終わりそうもない論争」『情報処理』第59巻第1号, 81-81.
- ・岡本雅子 2018.1 「最先端に立つ IT 系女子の憂鬱」『情報処理』第59巻第2号, 195-195.
- ・酒井博之・藤岡千也・岡本雅子・田口真奈・鈴木健雄・河野亘・飯吉透・河合直樹 2018.3 「ICT の教育的活用」京都大学高等教育研究開発推進センター『CPEHE Annual Report 2017』, 16-30.

【学会発表】

- ・岡本雅子 2017.9.16 「プログラミング演習における帰納的な学習方法の提案」日本教育工学会大会講演論文集, 島根大学
- ・岡本雅子・酒井博之 2017.12.15 「MOOC 制作および運用の支援における実践的課題について」大学 ICT 推進協議会年次大会 (ポスターセッション), 広島国際会議場
- ・酒井博之・岡本雅子 2017.12.15 「MOOC における講義デザインとその支援に関する一考察」大学 ICT 推進協議会年次大会 (ポスターセッション), 広島国際会議場
- ・藤岡千也・岡本雅子・安宅純子・酒井博之 2017.12.15 「京都大学の MOOC におけるコースカタログの開発」大学 ICT 推進協議会年次大会 (ポスターセッション), 広島国際会議場

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・ILAS セミナー「MOOC 入門」(前期, 共同)

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科, 前・後期)
- ・「高等教育開発論基礎」(教育学研究科, 前期)

【学外】

- ・京都外国語大学「CG 演習」(前期)
- ・京都外国語大学「Web プログラミング演習」(後期)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・情報環境機構 KUINS 利用負担金検討委員会 委員

【社会活動】

- ・情報処理学会コンピュータと教育研究会運営委員
- ・情報処理学会会誌編集委員会教育記事ワーキンググループ (EWG) 編集委員

藤岡 千也（特定助教）

1. 研究業績

【学会発表】

- ・ 藤岡千也・岡本雅子・安宅純子・酒井博之 2017.12.15 「京都大学の MOOC におけるコースカタログの開発」大学 ICT 推進協議会年次大会（ポスターセッション），広島国際会議場

長谷 海平（特定助教）

1. 研究業績

【学会発表】

- ・ 長谷海平・筒井武文 2018.3.30 「教育方法としての動画製作，その始まり」第 40 回美術科教育学会 滋賀大会

3. その他の活動

【社会活動】

- ・ CANVAS フェロー

【その他】

- ・ 映画祭コンペティション部門入選
Experimental Forum (International Film Festival) [USA] Best One Minute Film Awards
Gen Con Film Festival[USA] (International Film Festival) Official Selections
Cardiff Mini Film Festival [U.K] (International Film Festival) Official Selections
Erotic & Bizarre Art Film Festival [Spain] Official Selections
AZORES FRINGE FESTIVAL (International Film Festival) [Portugal] Official Selection